

考えを広げる参加型思考ツール

参加型の校内研修は、個々の意見を取り上げていくことが容易で、教職員の研修意欲を高める方法の一つです。時期や目的に応じて選択し、組み合わせながら実施しましょう。

マンダラ

マンダラとは一つの目標からそれを達成するためにたくさんのアイデアを出していく方法です。具体的な方策を考えることができます。

進め方

- ①中央に目標を書く。
- ②中央の目標に対して、必要なことを周りの8つの枠に書く。
- ③出てきた8つのことについて、さらにそれぞれ8つの方策を書く。
- ④方策を整理し、価値のある方策を選択し、取り組む。

夢の達成のために(例)

普段の態度	本を読む	プラス思考	計画性	愛される人間	感性	柔軟性	体のケア	サプリメント
応援される人間になる	運	道具を大切に	感謝	人間性	思いやり	睡眠7時間	体作り	可動域
あいさつ	ゴミ拾い	即座に	継続力	信頼される	礼儀	ベンチ10キロ	スクワット200キロ	食事 茶碗3杯
リフティング100回	フェイントの種類	プロの試合の研究	運	人間性	体作り	体幹強化	アウトサイドキック	トラップの安定
ドリブル練習	テクニック	プレ玉	テクニック	バルセロナ10番	コントロール	的当て	コントロール	PK練習
体幹強化	ヘディング練習	フリーキック	メンタル	スピード	持久力	パス練習	ティング	ロングキック
一番一憂しない	頭は冷静に心は熱く	雰囲気を読まれない	坂道ダッシュ	毎日ダッシュ50本	腕振り直す	毎日	ラン	水分補給
ハッキリとした目標を持つ	メンタル	仲間を思いやる心						リズム
ピンチに強い	疲をつくらない	勝利への執念	下駄の強化	可動域	ランニング	縄跳び	自転車	めざらない

一つのことについて8つのアイデアを出します。

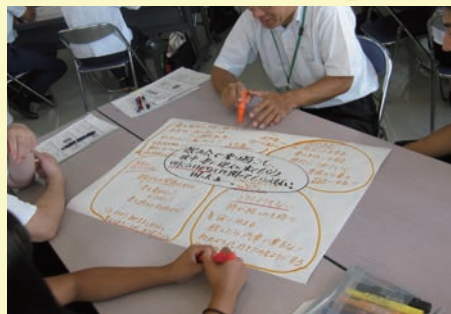
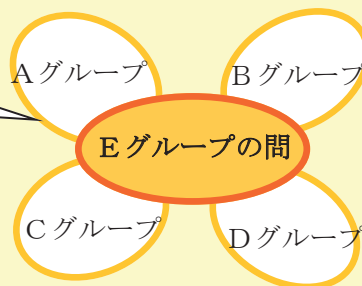
みつばちワクワクカフェ

みつばちワクワクカフェとは、グループで出た問いを自分たちのグループ以外の人からアイデアをもらって解決していく手法です。他のグループに聞くことで、自分たちでは思いつかなかったアイデアをもらうことができます。

進め方

- ①みつばち役になる順番を決める。
- ②みつばち役はワークシート（模造紙）を持って他のグループに移動し、自分のグループの問いを説明する。
- ③話合いで出された意見をワークシート（模造紙）の余白に書き込んでもらう。
- ④みつばち役がグループに戻り、もらった意見を報告する。
- ⑤みつばち役を交代し②③④を繰り返す。
(グループの数によってセット数を決める。)
- ⑥終了後、他のグループのワークシート（模造紙）を見て回り、なるほどと思う意見に「いいねシール」を貼る。

花びらになるように意見を書き込む。グループが多ければ、花びらを増やしてもOK。



(写真：東部教育局主催ワークショップより)

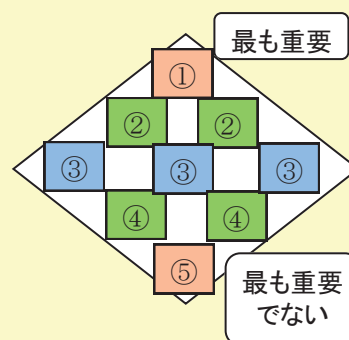
ダイヤモンドランキング

ダイヤモンドランキングとは、たくさんのアイデアや意見に順位をつけ、重要なものはどれかを話し合いながらまとめていく手法です。

〈写真：東部教育局主催ワークショップより〉

進め方

- ①議題について個人でアイデアを付箋に書く。
- ②グループ内で一人ずつ思いを語りながら書いた付箋を出し合う。出た意見を類型化して9つにまとめ、新たに9つのカードに書き込む。
- ③まとまった9つについて、グループごとに話し合いながら、みんなが同意した優先順位に従って、最も重要な意見を1つ、2番目に重要な意見を2つ、3番目を3つ、4番目を2つ、最も重要でない意見を1つ選んで右図のようにダイヤモンド型に並べる。
- ④各グループの代表が、ランキング1位と最下位について、どんな話し合いの過程で決まったのか説明する。時間があれば、グループ内で意見がまとまりにくかったカードについても、その理由を説明する。



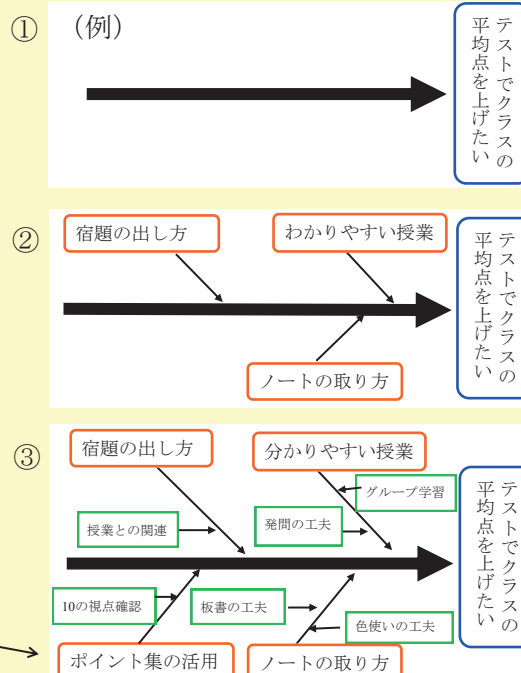
フィッシュボーン法

フィッシュボーン法とは、ある課題について原因や改善案を整理・可視化することによって、客観的に広い視野で捉え、よりよい方策を探索することができる手法です。

進め方

- ①模造紙等に課題を分かりやすく書く。
 - ②矢印を書き、課題に対しての原因（アイデア）を書き入れる。
 - ③②で考えた原因（アイデア）について、解決策（アイデアの場合は実現するための方法）を書き入れる。
 - ④解決策（アイデアを実現するための方法）を共有する。
- ※各原因ごとに解決策（アイデアを実現するための方法）を1つ決め、取り組む等もできます。
 ※個人・グループどちらでも活用することができます。

話し合いの途中で出されたアイデアを付け加えてもよい。



道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）

※以下の指導方法は、本専門家会議における事例発表をもとに作成。したがってこれらは多様な指導方法の一例であり、指導方法はこれらに限定されるものではない。道徳科を指導する教員が学習指導要領の改訂の趣旨をしっかりと把握した上で、学校の実態、児童生徒の実態、児童生徒の態度、児童生徒の主体性を踏まえ、授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択することが重要。
 ※以下の指導方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。

	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	
ねらい	×			×
	導入	<p>教材の登場人物の判断や心情を自分とどの関わりで多角的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。</p> <p>学習指導要領においては、道徳科の目標を「道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己をみつめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と定めている。この目標をしっかりと踏まえたものでなければ道徳科の指導とは言えない。</p> <p>道徳的価値に関する内容の提示 教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付けける。</p>	<p>役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。</p>	<p>主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合い</p>
	展開	<p>登場人物の自我関与、登場人物の判断や心情を類推することを通して、道徳的価値を自分とどの関わりで考える。</p> <p>【教師の主な発問例】 ・どうして主人公は、〇〇という行動を取ることができたのだろう（文ではできなかったのだろう）。 ・主人公はどのような思いをもって△△という判断をしたのだろう。 ・自分だったら主人公のように考え、行動することができたらどうか。</p> <p>振り返り 本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらと交流して自分の考えを深めたりする。</p>	<p>道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など ・教材の中含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 ・日常生活で、大切さが分かっていてもなかなか実践できない道徳的行為を想起し、問題意識を持つ。</p> <p>道徳的な問題場面の把握や考察など ・道徳的行為を実践するには勇気がいることなど、道徳的価値を實踐に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ・価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっていくかを考える。</p> <p>問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など ・俳優やグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。 ・実際に問題場面を設定し、道徳的行為を体験し、その行為をすすめることの難しさを理解する。</p> <p>道徳的価値の意味の考察など ・役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を見たりしたことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。</p> <p>同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体験することを通して実生活における問題の解決に見通しをもたせる。</p>	
終末	<p>【教師の主な発問例】 ・何と何で迷っていますか。 ・なぜ迷ったのか、道徳的諸価値が実現できるのでしょうか。 ・同じ場面に出会った自分ならどう行動するでしょう。 ・なぜ、自分はどのように行動するのでしょうか。 ・よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるでしょう。</p> <p>探究のまとめ ・解決策の選択や決定、諸価値の理解の深化・課題発見 ・問題を解決する上で大切にしたい道徳的価値について、なぜそれを大切にしたいのかなどについて話し合い等を通して考えを深める。 ・問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 ・考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。 ・問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す。</p>			

	×	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
指導方法の 効果	<p>・子供たちが読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的。</p>	<p>・出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。</p> <p>・他者と対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性。</p> <p>・問題の解決を求める探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値。</p>	<p>・心情と行為とをすり合わせることで、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効。</p> <p>・体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能。</p>	<p>・心情と行為とをすり合わせることで、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効。</p> <p>・体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能。</p>	<p>主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合い</p>
指導上の 留意点	<p>登場人物の心情理解のみの指導</p> <p>・教師に明確な主題設定がなく、指導観に基づく発問でなければ、「登場人物の心情理解のみの指導」にならないかねない。</p>	<p>道徳的諸価値に関わる問題について多様な他者と考え、議論する中で、多面的・多角的な見方へと発展し、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりで深めることが可能。</p> <p>明確なテーマ設定のもと、</p> <p>・多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。</p> <p>・上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。</p> <p>・議論し、探求するプロセスが重視されているか。</p> <p>といった検討や準備がなければ、単なる「話し合い」の時間になりかねない。</p>	<p>明確なテーマ設定のもと</p> <p>・心情と行為との齟齬や葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。</p> <p>・上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。</p> <p>といった検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒・生活指導になりかねない。</p>	<p>明確なテーマ設定のもと</p> <p>・心情と行為との齟齬や葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。</p> <p>・上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。</p> <p>といった検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒・生活指導になりかねない。</p>	
評価	<p>・個人内評価を記述式で行う。 ※児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達段階に応じ励ましていく評価。</p>	<p>・道徳科の学習において、その学習活動を踏まえ、観察や会話、作文やノートなどの記述、質問紙などを通して、例えば、 ○他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか ○多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか といった点に注目する必要がある。</p> <p>・学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するための工夫が必要。</p> <p>・妥当性・信頼性の確保のため組織的な取組が必要。</p>	<p>・個人内評価を記述式で行う。 ※児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達段階に応じ励ましていく評価。</p> <p>・道徳科の学習において、その学習活動を踏まえ、観察や会話、作文やノートなどの記述、質問紙などを通して、例えば、 ○他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか ○多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか といった点に注目する必要がある。</p> <p>・学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するための工夫が必要。</p> <p>・妥当性・信頼性の確保のため組織的な取組が必要。</p>	<p>・個人内評価を記述式で行う。 ※児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達段階に応じ励ましていく評価。</p> <p>・道徳科の学習において、その学習活動を踏まえ、観察や会話、作文やノートなどの記述、質問紙などを通して、例えば、 ○他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか ○多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか といった点に注目する必要がある。</p> <p>・学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するための工夫が必要。</p> <p>・妥当性・信頼性の確保のため組織的な取組が必要。</p>	

特設ページ 「特別の教科 道徳」の充実のために

目標・学習指導の展開編

「特別の教科 道徳（道徳科）」は、その目標の中で育成をめざす資質・能力とその資質・能力をどのような学習によって養うのかが示されています。「特別の教科 道徳（道徳科）」の目標を知ることが、道徳科の充実には欠かせない最重要事項と言えます。

道徳科の目標

道徳科の目標（中学校）

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる**道徳性を養うため**、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習**を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

ポイント

青字で記した部分が、期待される授業の有り様です。特に、下線部は児童生徒の学習の姿として強く意識すべきこととなります。下線部のような学習状況が実現されているかを評価し、指導に生かすことが重要となります。

道徳科の学習指導の展開



「学習指導要領解説」
のここに注目

第4章 指導計画の作成と内容の取扱い
第2節 道徳科の指導
2 道徳科の特質を生かした学習指導の展開
(1) 道徳科の学習指導案
イ 学習指導案作成の主な手順
(エ) 学習指導過程を構想する

【小学校】

ねらい、児童の実態、教材の内容などを基に、授業の展開について考える。
その際、児童が
どのような問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を理解し、自己を見つめ、多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるのかを具体的に予想しながら、それらが効果的になされるための授業全体の展開を構想する。
(中略)
児童が道徳的価値に関わる事象を主体的に考え、また、児童同士の話し合いを通してよりよい生き方を導き出していくというような展開も効果的である。

【中学校】

ねらい、生徒の実態、教材の内容などを基に、授業の展開について考える。
その際、生徒が
どのように感じたり考えたりするのか、どのような問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を理解し、自己を見つめ、多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるのかを具体的に予想しながら、生徒が道徳的価値との関わりや、生徒同士、生徒と教師との議論の中で人間の真実やよりよく生きる意味について考えを深めることができるよう、それらが効果的になされるための授業全体の展開を構想する。

ポイント

ねらい、児童生徒の実態、教材の内容などを基に、教師は、子どもに何を考えさせたいか、子どもが何を考えたいかをふまえ、子どもに考えさせるべきことを確かもつことが必要です。
その上で、授業の中に次のような問いを効果的に位置づけることが大切です。

- ◆ **考えたくなるような問い**
- ◆ **自分の考えをもちたくなるような問い**
- ◆ **自分とは異なる他の人の多様な考えを聞きたくなるような問い**



特設ページ

「特別の教科 道徳」の充実のために

指導計画編

年間指導計画は、各学校において道徳科の授業を計画的、発展的に行うための指針となるものであり、各学校が創意工夫して作成されるものです。

指導計画の作成と内容の取扱い



「学習指導要領解説」
のここに注目

第4章 指導計画の作成と内容の取扱い
第1節 指導計画作成上の配慮事項
1 指導計画作成の方針と推進体制の確立
2 年間指導計画の意義と内容

※ [] は、小学校において加わる記述

（「第3章特別の教科道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の1）

各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、〔外国語活動、〕総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする。
なお、作成に当たっては、第2に示す〔各学年段階の〕内容項目について、〔相当する〕各学年において全て取り上げることとする。
その際、生徒（児童）や学校の実態に応じ、3学年間（2学年間）を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする。

1 年間指導計画の方針と推進体制の確立

（前略）

道徳科の指導は、学校の道徳教育の目標を達成するために行うものであることから、学校においては、校長が道徳教育の方針を明確にし、〔全教師に周知するとともに、〕指導力を発揮して、〔全教師が協力して道徳教育を展開するため、〕道徳教育の推進を主に担当する教師を中心とした指導体制を整え（中心として）、道徳教育の全体計画に基づく道徳科の年間指導計画を、全教師の共通認識の下に作成する必要がある。



ポイント 校長のリーダーシップと全教師の参画が大切です。

2 年間指導計画の意義と内容 （2）年間指導計画の内容

年間指導計画は、各学校において道徳科の授業を計画的、発展的に行うための指針となるものであり、各学校が創意工夫をして作成されるものであるが、上記の意義に基づいて、特に次の内容を明記しておくことが必要である。

ア 各学年の基本方針

全体計画に示されている道徳教育の目標に基づき、道徳科における指導について学年ごとの基本方針を具体的に示す。

イ 各学年の年間にわたる指導の概要

具備することが求められる事項としては、次のものがある。

- (7) 指導の時期
 - (イ) 主題名
 - (ウ) ねらい
 - (エ) 教材
 - (オ) 主題構成の理由
 - (カ) 学習指導過程と指導の方法
 - (キ) 他の教育活動等における道徳教育との関連
 - (ク) その他

ポイント

それぞれの事項の記載内容については、解説文の中で、「端的に表したものを記述する」や「簡潔に示す」などのように記されています。「（1）年間指導計画の意義」も参考にしながら、各学校において「使える年間指導計画」を作成しましょう。

特設ページ

「特別の教科 道徳」の充実のために

評価編

学習における評価とは、生徒にとっては、自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくものであり、教師にとっては、指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものです。道徳科の評価も、常に指導に生かされ、結果的に児童生徒の成長につながるものでなくてはなりません。

まずは

「学習指導要領解説」のここに注目

第5章 道徳科の評価
第1節 道徳科における評価の意義

（「第3章特別の教科道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4）

生徒（児童）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。



ポイント

上記内容を基に、以下の文部科学省から出された報告等を確認することが大切です。

道徳科における評価の基本的な考え方

- 児童生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、**教師の側からみれば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料。**
- 道徳科の特質を踏まえれば、評価に当たって、
 - ・数値による評価ではなく、**記述式**とすること、
 - ・個々の内容項目ごとではなく、**大きくくりなまとまりを踏まえた評価**とすること、
 - ・他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人内評価**（※）として行うこと、
 - ・学習活動において児童生徒が**より多面的・多角的な見方へと発展しているか**、道徳的価値の理解を**自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視すること、
 - ・道徳科の学習活動における児童生徒の**具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取る**ことが求められる。
 - ※個人内評価・・・児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の段階に応じ励ましていく評価

道徳科の評価の方向性

- 指導要録においては当面、一人一人の児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、
 - ・他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
 - （自分と違う意見を理解しようとしている、複数の道徳的価値の対立する場面を多面的・多角的に考えようとしている等）
 - ・多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
 - （読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている、道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え考えようとしている等）
 といった点に注目して見取り、特に顕著と認められる具体的な状況を記述する、といった改善を図ることが妥当。
- 評価に当たっては、**児童生徒が一年間書きためた感想文をファイルしたり**、1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して変容を見取るのは難しいため、**年間35時間の授業という長い期間で見取ったりする**などの工夫が必要。

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）【概要】
（平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）より一部抜粋

ポイント

道徳科の評価は、道徳科の授業で自分のこととして考えている、他人の考えなどをしっかり受け止めているといった成長の様子を丁寧に見て行う、記述による「励まし、伸ばす」積極的評価を行います。

幼稚園教育要領

第1章 総則

第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

3 次に示す「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園終了時の具体的な姿であり、教師が指導をする際に考慮するものである。

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え、言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

同様の内容が、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に記載されています。